



連休はいかがでしたか。世間は休みでも仕事や用事でお忙しかった方もいらっしゃるかもしれません。

私(わたくし)は何をしていたかという、部屋に乱雑に積んでいた本を読んでいました。テレビはあまり観ませんでした。なんか脂っこくて食べすぎると胸焼けするような感じの番組が多かったので。路線バスやローカル線に乗って〇〇みたいなのはいいですけどね。この辺は私も歳をとったなと思う今日この頃です。

で、今回の本題。「私のこの3冊」ということで紹介します。これらは何回も何回も、手あかがついてページがちぎれるくらい読み直してきたものばかり。読んだときの年齢や精神状態によって読後の印象が異なるのも興味深いというもの。

「日本の川を旅する」は、一昔前にチキ〇ラーメンのCMにも出ていた方のエッセイ。文章が簡潔かつ丁寧。言い回しも絶妙で、風景や音や匂いまでもが感じ取れる一冊。人との関係で疲れたときにおすすすめです。

「フィッシュ・オン」はかの文豪、開高健氏の一冊。「オーパ」でないところが渋いかな。言葉を自由に操れる文章力・表現力に圧倒されます。釣りは単なる趣味や道楽ではなく哲学かもしれない、たとえば大げさかな。人との関係に悩んだときにおすすすめ。

そして「漂流」は、無人島で何年も生き抜いた男の話。心の動きや葛藤を緻密に描いた作品で、物語(つまり文字からの情報だけ)にもかかわらず、キャスト・アウェイ [Cast Away: トム・ハンクス主演の映画] なんか全然及ばないぐらいの迫力です。人とのよりよい関係を求めたいときにおすすすめかも。

自身の読書体験を語るのは少々恥ずかしいですが、子どもたちに読書を勧めるためには、それもまた必要なことかなと思います。次は誰を指名しましょう。そのところは、学校だよりを書いている者の権限で、私に決めさせてもらいましょうか。